

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和元年 7月26日

計画の名称	姫路市における安全・安心で快適な都市づくり (防災・安全)									
計画の期間	平成27年度 ~ 平成28年度 (2年間)		交付対象	姫路市						
計画の目標	交通機関が集中する姫路市中心部は、街路整備を行い通過交通や集中交通の効果的な分散化を図り、播磨地域の母都市で世界文化遺産姫路城を核とした国際観光都市としてふさわしい都市基盤を形成することにより、中心市街地の賑わいを創出する。 生活基盤を支える市町村道を整備し、最寄の鉄道駅への利便性及び安全性を高めつつ、快適で安心な複数のコンパクトで充実した地域生活圏を形成する。また、この地域生活圏相互や都心部への移動利便性及び安全性の向上を図ろうとするものである。									
計画の成果目標 (定量的指標)	道路交通における死傷事故を平成25年と比較して約0.5割削減する。 公共交通乗車人員を平成25年と比較して4%増加させる。									
定量的指標の定義及び算定式				定量的指標の現況値及び目標値			備考			
				当初現況値 (H27当初)	中間目標値 (H28末)	最終目標値 (H28末)				
① 姫路市内の死傷事故発件数を調査する。				4,558件	4,329件	4,329件				
② 姫路市内の鉄道・バス年間乗車人員を測定する。 (市内の鉄道・バス1日平均乗車人員) = (市内の鉄道・バス年間乗車人員) / (当該年度の日数)				159,130人/日	165,334人/日	165,334人/日				
全体事業費	合計 (A+B+C)	1,345 百万円	A	1,345 百万円	B	0 百万円	C	0 百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	0.0%

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期	事後評価の実施時期
事後評価の実施体制	令和元年7月
姫路市において目標の達成状況と指標の達成状況を確認。	公表の方法
	姫路市ホームページにて公表

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業																	
A1 道路事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	道路種別	省略工種	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考
											H27	H28	H29	H30	H31		
A-1	街路	一般	姫路市	直接	—	S街路	改築	(都)内環状東線	現道拡幅 L=190m W=30m	姫路市						46	
A-2	街路	一般	姫路市	直接	—	S街路	改築	(都)内環状東線 (北工区)	現道拡幅 L=210m W=30m	姫路市						404	
A-3	街路	一般	姫路市	直接	—	S街路	改築	(都)内々環状南線	現道拡幅 L=160m W=20m	姫路市						106	
A-4	街路	一般	姫路市	直接	—	S街路	改築	(都)市之郷線	駅前広場・現道拡幅 L=44m W=15~18m	姫路市						390	
A-5	道路	一般	姫路市	直接	—	市町村道	修繕	幹第6号線ほか10路線	舗装修繕	姫路市						104	
A-6	道路	一般	姫路市	直接	—	市町村道	交安	姫路市役所周辺地区(1)幹第7号線 (安田~東延末)	自歩道整備 L=10m	姫路市						96	
A-7	道路	一般	姫路市	直接	—	市町村道	電共	幹第43号線	電線共同溝 L=900m	姫路市						60	
A-8	街路	一般	姫路市	直接	—	区画	改築	JR網干駅前地区((都)網干線ほか2路線)	区画整理 A=5.0ha	姫路市						122	
A-9	街路	一般	姫路市	直接	—	S街路	改築	(都)熊見線ほか1線	駅前広場・道路新設 L=832m W=16~25m	姫路市						17	
											小計 (道路事業)			1,345			
											合計			1,345			

B 関連社会資本整備事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
										H27	H28	H29	H30	H31		
										合計					0	

番号	一体的に実施することにより期待される効果													
----	----------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

C 効果促進事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
										H27	H28	H29	H30	H31		
										合計					0	

番号	一体的に実施することにより期待される効果													
----	----------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・無電柱化事業を推進したことにより、車道から歩道への見通しが良くなり歩行者の安全を確保することができた。このことが指標①(死傷事故発生件数の削減)にも繋がっている。 ・JR網干駅について区画整理事業と一体的に道路整備を進めた結果、JR網干駅のみで見ると、利用者はH27当初現況値(H26乗車人員)7,432人/日に対してH28末数値(H28乗車人員)7,721人/日となり、約4%増加している。 														
--------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

II 定量的指標の達成状況	指標①(姫路市内の死傷事故発生件数の削減率)	最終目標値	4,329件	目標値と実績値に差が出た要因	事業中の区域内の都市計画道路等が未完成のため、工事期間中は最寄り駅へのアクセスがやや不便になったことが駅利用者が伸び悩んだ一因と考えられる。都市計画道路が開通となれば、通勤・通学者の利便性が向上し、駅利用者の増加が見込まれる。
		最終実績値	3,788件		
	指標②(姫路市内の全鉄道駅の年間乗車人数及びバス利用者数の推移)	最終目標値	165,334人/日	目標値と実績値に差が出た要因	
		最終実績値	162,802人/日		
		最終目標値		目標値と実績値に差が出た要因	
		最終実績値			

III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)															
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

3. 特記事項(今後の方針等)															
-----------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(参考図面)

計画の名称	姫路市における安全・安心で快適な都市づくり (防災・安全)		
計画の期間	平成27年度 ~ 平成28年度 (2年間)	交付対象	姫路市

